

令和4年度(補正予算)  
独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業

地域の多様な主体の連携による、  
有機的支援体制構築事業

# 報告書 2023年度

## 報告書作成にあたって

本報告書は、私たち特定非営利活動法人かぬま市民活動サポートーズが、2023年度に実施した、『地域の多様な主体の連携による、有機的支援体制構築事業』から得られた経験や知見を、地域で活動する中間支援団体等へ発信する事で、何かしらの糧に繋がればと思いい作成したものである。（掲載情報は2023年5月～2024年2月分（一部3月含む））

当法人は任意団体から通算で18年、中間支援団体として「協働のまちづくり」の推進を目的に、栃木県鹿沼市を中心に活動を続けてきた。当事業はそれまで培ってきた経験や強みを活かし、「生活困窮者、ひきこもり状態にある者及び生活困窮家庭の子ども等の支援を行う民間団体への支援」を狙い実施したものである。実施の中で、取り組み分野における新たな課題の発見や、中間支援団体としての新たな手段や教訓の獲得等、法人としても貴重な経験となった。本報告書は、概要ではあるがそれらを掲載したものである。

最後にはなるが、貴重な経験の機会と今後へのきっかけを与えてくださった独立行政法人福祉医療機構の皆様から感謝を申し上げたい。

特定非営利活動法人かぬま市民活動サポートーズ

理事長 井上玉枝

---

### 事業実施の背景

---

背景としては、大きく3つの段階がある。①当法人のNPO向け相談業務、及び「鹿沼ひきこもり協議会（※1）」の実施を通し、支援者等のニーズ把握ができ、かつそれが複数の支援者等に共通していると分かった事 ②ニーズへの対応が、結果的に当事者等の困り事解消に繋がると想定できた事 ③対応する為に不足していた、実施のきっかけや資金面の不足がWAM助成により補完できた事である。また「鹿沼ひきこもり協議会」で育んできた、支援者間の信頼関係が十分にあった事も非常に重要なポイントである。

（※1）「鹿沼ひきこもり協議会」（以下、協議会）

ひきこもり・不登校等に関する専門性を持った支援者同士の情報交換や資源の相互提供等を行う任意の集まり。（2019年末より実施）NPOに限らず行政や民間の支援者等も含めて緩いネットワークを育てている。当法人は事務的な機能を中心に担っている。

---

### 事業実施の目的

---

実施の大きな目的は、鹿沼市及び近隣地域で活動する支援者等の活動がし易くなる事や、新しい支援が広がる事を通し、地域としての支援体制が充実する事である。また、その充実を通し、結果として当事者等の困り事解消に繋がる事も重要な目的である。更に中間支援と言う手段で地域の課題解決を図るといふ、当法人の責務を果たす事も狙った。

## 鹿沼ひきこもり協議会並びに地域の当事者支援体制の強化と拡充事業

## ①市外含む未連携の当事者支援団体・機関との繋がり構築

目的：市外も含めた、支援者等のネットワークの拡充。

内容：協議会実施による既存のメンバーの繋がり深化を行うと共に、未連携の支援者等や支援機関との繋がり構築の為に、近隣5市町を含め訪問し、協議会の周知とお誘い、連携提案を行った。

目標：毎月1回の協議会実施と平均参加団体を4から7へ新規連携団体を20以上にする

結果：毎月1回の協議会の実施と平均参加団体は7に/新規連携団体24



## ②近隣企業等への連携体制構築(中間的就労等含む)に向けた働きかけ

目的：企業等との間で何かの時に相談や連携ができる関係性を持つ事。

内容：主に市内を中心とした企業等に、協議会の周知と、連携提案を行った。また中間的就労の機械取得に繋げる事も目的としてアプローチした。

目標：働きかけを25社以上行う/具体的連携を3社生み出す

結果：働きかけ329社(事項のボランティア養成講座の従業員への周知協力、内56社には中間的就労及びNPOとの連携の現状に関するアンケートの実施)/具体的連携は0(但し3月末に地元中小企業同友会にて中間的就労の説明とワークショップ実施の予定ができ、今後に繋がる関係性も創出できた)

## ③支援団体等への支援を目的としたボランティア養成講座実施

目的：支援者等の支援活動へのボランティアの獲得。

内容：広く一般市民、退職者等に向けた「ボランティア養成講座」を行った。講師には協議会メンバーが担い、一般的なボランティアに関する知識だけではなく、支援者等への支援に必要な知識や体験も取り入れると共に、支援者等を直接知ってもらう内容にて実施した。(全三日間の講座)

目標：参加者8人延べ24人/その後の具体的な行動に3人以上繋げる

結果：実人数9人延べ18人/その後の具体的な行動0人(一人はその後、活動についての相談を受けている)

## CONSIDERATION

## 考察

新たに繋がった支援者等の連携により、ファイナンシャルプランナーによる、当事者等向け「お金の勉強会」の実施や、支援者同士の新たな協力が創出された。連携が進んだポイントとしては1.特定の課題をキーワード(今回は不登校・ひきこもり等)に連携を呼びかけた事(協働ありきでは無い形)2.緩いつながりを意識的に保った事3.直接訪問し顔を合わせて情報交換を行った事4.そして相手のタイミングとこちらのタイミングが合った事等が考えられる。

企業との連携の目標未達の理由について、アプローチ「先」と「方法」の選定調整に、想定よりも時間を要した事がある。次年度はできた関係性を大切に、目標達成を目指す。また、養成講座の目標未達については、講座の中に支援団体等の具体的な現場(例えば居場所)での実施等を組み入れる事で、受講後の踏み出し易さに繋げる事も必要だったと考えられる。次年度は内容の角度アップと、今年度の受講者の伴走も含め進める。

## 具体的な専門的支援の展開事業

### ①ひきこもり当事者向けカウンセリング

目的：支援者等に支援手段の一つとして活用される事、また当事者に利用される事。

内容：公認心理師等による、専門的なカウンセリングを無料で実施

目標：40日間開設/延べ利用者40人

結果：61日間開設/延べ利用者25人



### ②ひきこもり当事者の家族向けの勉強会の実施

目的：支援者等に支援手段の一つとして活用される事、また当事者家族等に活用される事。

内容：家族支援の考え方を取り入れた家族向け勉強会と、ファイナンシャル・プランナーによるお金の勉強会を無料で実施した。

目標：12日間実施/1日あたり参加8組/延べ96組 結果：9日間実施/1日あたり参加約1.3組/延べ12組

### ③ひきこもり相談会の実施

目的：支援者等に支援手段の一つとして活用される事、また当事者に利用される事。

内容：公認心理師等による、ひきこもり専門の相談会を無料で実施。

目標：22日間開設/延べ利用者44組

結果：37日間開設/延べ利用者48組

### ④送迎付き居場所事業

目的：支援者等の支援手段の一つとして活用される事、また当事者に利用される事。

内容：家以外の「安心できる場」として『ひきこもりラウンジリトルジェム』を開設した。

目標：120日間開設/延べ利用者420人

結果：124日間開設/延べ利用者60人



## CONSIDERATION

### 考察

数値的な面では、開設日は概ね目標達成、利用人数は全体的に想定を下回る結果になった。無論数値ありきの事業では無いが、想定の難しさを学んだ結果となった。

また、居場所について、年度の途中で開設時間や実施講座に変更を行った。その為後期にかけて利用人数が増える傾向がみられたり、年度当初に配ったチラシを元に、年末に問い合わ

せが来る等（問い合わせるのに長い間迷っていた等）の変化も見られた。更にカウンセリングや相談会についても予定日以外の対応（当事者等の都合に合わせた対応）も多くみられ、支援者側の柔軟で粘り強い対応の必要性が明らかになった。そしてその必要性を支える、支援者への持続的な支援の仕組み作りが、早急に必要である事も同様である。

## 地域の支援体制及び課題の周知啓発支援としての情報発信事業

### ①2021年度作成の「鹿沼市地域資源ガイド」の情報更新と配布

目的：当事者家族やその周辺の人々、また広く一般に対して支援者等の情報の認知向上を図る事。また資源ガイドの掲載情報の拡充と更新を行う事。

内容：既存の「鹿沼市地域資源ガイド」を「かぬま不登校・ひきこもりサポートガイド」として掲載情報の更新及び拡充を行った。

またその配布については、地域の中で活用される事を目指し、情報が集まりやすい場所や人を中心に実施（配布は3月）

目標：1万部の配布

結果：配布は3月末に実施予定/掲載団体は18から41に増加  
市の公式ラインや下野新聞等でも周知予定



◀ガイド掲載ページ



### ②支援体制及び、ひきこもりや困窮、孤立等の課題周知と啓発の為の動画作成とその活用



上：支援者のインタビューシーン

下：課題啓発のテロップシーン

目的：広く一般に対してひきこもり等の課題の啓発と支援者等の情報の認知向上を図る事。また支援団体等への支援者の獲得（ボランティア、寄付等）に繋げる事。

内容：地域の支援者等が出演する2本の啓発動画を作製周知。

1本目/支援を必要としている当事者及び広く一般に向けた支援体制の周知を狙った動画

2本目/ひきこもり困窮孤立等の課題の啓発とそれを支援する団体への支援者獲得に繋がる動画

目標：動画を通した支援者等への支援者獲得を10人

結果：現在0人（支援者獲得に繋がる動画の完成は3月中に）

完成した動画は市の公式ラインや地元ケーブルテレビ、支援者等のHP/SNS等で周知 ※1本目は周知開始済み

動画のリンク▶



## CONSIDERATION

**考察** 全体的にスケジュールが押し、目標未達である。（3月末時点の見込：ガイドの配布5,500部・動画2本目の周知も開始）理由として想定よりも情報量が充実し、各作業に時間を要した為である。

ガイドについては、掲載が23団体プラスと拡充になった。専門分野以外の掲載も進め、課題解消に重要な「多様さ」を意識して作成した。

またガイドは支援者や自治会・民生委員等の当事者周辺での活用も目指している。既に支援者からも「こういった情報は助かる」「こういう団体は知らなかった」との声も頂いている。

動画については、効果の表れはこれからではあるが、支援者から「今後もツールとして活用できる」との声も頂いており、作って終わりでは無い作品を創出できている。

## 事業実施により明らかになったニーズや課題

### ●ニーズ

新たに明らかになった支援者等のニーズは、大きく3つある。①支援の現場で、中間的就労の更に手前として、気軽に案内でき、かつ少額でも金銭が得られる「やる事（内職も）」が必要とされている事。②支援者等は、支援を行うにあたって専門外の知識やスキル（お金の知識や、SNSの知識、スマホの使い方等）が求められる時があり、それらの習得機会を必要とする事。③新たに複数の機能を持たせた

居場所を始めたい団体があり、始めるにあたって様々な分野の知恵や経験を必要としている事。以上が明らかになった。尚、既存のニーズである、支援手段の一つとしての「安心できる居場所」「専門的な相談窓口等」「他支援者等との連携拡充」「ボランティアや資金的な支援獲得」等は、継続して存在しており、またそれらが長期的に安定して続く体制が必要なことも、変わらず求められている。

### ●課題

解消すべき課題として、まず全体に言えるのが、人力的または金銭的もしくはその両方の不足と、その不足を補う仕組み等が無い事、また創出しきれていない事である。支援者等のそれぞれの規模や、所属母体により違いはあるが、ほとんどの場合支援者の頑張りにより支援の多くが保たれており、余裕はそう多くはない。特にひきこもりの分野においては制度の狭間にある為、尚更である。

また個別のニーズで見ると、①中間的就労の手前については地域の中で体系化されたものがほぼ無い事。既存の仕組みがあっても情報が行き渡っていない場合や、どう利用したらいいか伝わっていない事がある。（一部については当事業を通し、支援者に

情報が渡り活用に繋がった）②知識やスキルの習得については、部分的には支援者個人として習得も可能ではあるが、日々の支援活動の中、都合のいいタイミングで一定の習熟を得られる機会等を得るのは難しい事。③新たな居場所については、人員と想いはあるが、組み入れる機能についての専門性や、資金的な不足がある事。が明らかになった。

最後に俯瞰的な視点として、前出及びその他のニーズに関する課題解消にあたり、様々な主体の連携による取り組みが効果的かつ合理的なのは明確ではあるが、連携を呼びかけ、共に伴走する中間支援機能を持続的に担保する事が困難である事も、課題の一つである。

## 事業実施のまとめと今後に向けて

当事業により、支援者同士・支援団体同士の連携やその拡充が様々な面で効果的であると、手ごたえをもって明確になった。しかし、継続的支援の重要なポイントである「支援者への支援獲得とその仕組みづくり」については予定通りには進んでいない。ただ、創出の道筋は少なからず見えている状況であり、今後も実施を継続する。その他の内容についても、今まで同様に支援者と話し合いながら進める。

そして当事業の継続した実施にとって課題である資金的不足については「拡充した繋がり」と「助成金」の活用、「作成したツールによる課題の啓発」「他事業との掛け合わせ」を基軸に、「制度化」や「他中間支援団体との連携」等、大きな枠組みでの解消も狙い進める。更に当法人としては、今回で培った経験を元に、他分野での中間支援も促進する事で地域全体の「協働のまちづくり」も推し進める。

## 参考資料

### ● アンケート結果

当事業実施に関する、支援団体等へのアンケート結果である。

※アンケート実施団体数 7（本冊子作成時点の情報であり、4月以降に最終的な情報が確定）

#### Q.満足度を教えてください

回答 とても満足 2 満足 5 やや不満足 0 不満足 0

#### Q.満足度の理由を教えてください

- ・動画による事業のPRができた/中間就労の説明の場が増えた
- ・関係機関と話し合う機会が増え、情報を得ることができた
- ・初年度としては、まず知ってもらうところからなので、これくらいなのかなという気持ちと もっと利用される方がいても、いいのではないかということも感じている
- ・居場所を作ったが利用者は少なかった。家族療法などを取り入れた粘り強い対応ができるような 長期の支援がほしい
- ・居場所として紹介できる場所が広がった/家族の勉強会等、より踏み込んだ支援が可能となった
- ・支援が受けられて、団体の活動内容、範囲が広がった

#### Q.当事業により支援活動に役に立ったこと等を教えてください

- ・ひきこもりの相談窓口を紹介できるようになった/中間就労の受け入れ企業増加に繋がった
- ・協議会に参加することで、新しい繋がりができました（インフォーマルの資源を知る事ができた）
- ・自センター内での勉強会実施に繋がり、支援や活動の幅が広がりました
- ・カウンセリングを広く知ってもらい、活用してもらい、状況が変化した
- ・ひきこもりとその支援についてのPVができ、社会課題として一般の方に意識づけができた
- ・協議会で新しい繋がり等が出来た事で、他団体の情報提供や情報共有がスムーズになった
- ・当事者に内職の紹介や、リトルジェムの同行支援が出来た
- ・他支援センターにリファーする等により、適切な支援に移行できた
- ・「無料」相談が、当事者家族が相談を継続する動機になった

#### Q.支援団体への支援は今後も必要ですか？

回答 必要 7 不要 0

#### Q.今後どのような支援や事業が必要だと思いますか？

- ・地域に複数の居場所があるといい/鹿沼市地域版の内職紹介ができるシステム
- ・多様な相談窓口（専門に近い）
- ・ひきこもりの相談窓口と共に、社会参加できるようになるまで伴走できる継続的な仕組み
- ・在宅で、できる中間的就労の形がほしい
- ・地域の企業等と（気軽に相談できる、協力できる）ネットワークづくり
- ・親の居場所/支援者に必要なスキルや知識が得られる研修の場
- ・支援者が悩んだり支援に行き詰った時のスーパービジョン等が出来る場所
- ・社会資源の細やかな情報収集とその共有が得られる事業

●事業実施の様子や資料



左：ひきこもりラウンジリトルジェム 右上：ボランティア養成講座の様子 右中：啓発動画のワンシーン（支援者の背中）  
右下：啓発動画のワンシーン（支援者の笑顔）

左：サポートガイド 中：ボランティア養成講座のチラシ 右：ひきこもりラウンジリトルジェムの鹿沼市広報記事

■2024年3月25日 発行

[作成] 特定非営利活動法人 かぬま市民活動サポーターズ  
〒322-0054 栃木県鹿沼市下横町1302まちなか交流プラザ1F  
Tel: 0289-60-2212 Fax: 0289-60-2213 Mail: sapo@kanuma-sapo.org

この報告書は、令和4年度(補正予算)  
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業を活用し作成しました。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業